

群馬県における 教育データ利活用に関する取組

第23回教育データの利活用に関する有識者会議
令和6年7月10日(水)

1. 群馬県の教育DX推進の取り組みの特徴

県が主導し、県市町村のゆるやかな連携により推進

具体例

(1) 校務のデジタル化(H19~R2)

- ① 県:「群馬県版校務支援標準システム」
- ② 市町村ごとに校務支援システムを導入 R2時点で、95%の市町村が導入

(2) DXを基盤とする新しい学びの確立(R2~)

- ① GIGA端末、ネットワーク整備(2年間で県内全公立小中高)
市町村ごとに導入、県:共同購入、整備支援、共通化に努める
- ② 県市町村の情報共有(ICT教育推進協議会、R3~)
- ③ 市町村の支援(教育DX推進センター、R4~)
- ④ 校務支援システムのクラウド化(計画中)

1. 群馬県の教育DX推進の取り組みの特徴 具体例のつづき

(3) 教育データの利活用 (R3~)

ライフ・ログ(心の健康観察)、スタディ・ログ

① 企業の開発したアプリを利用

- ・県が希望する県立高校、市町村の費用負担 (R3~R5)

- ・企業の協力により、学校ごとにチューニング

学校:つかいやすいシステム

企業:汎用システムの開発への知見

② 汎用性が高く、費用のかからないものを県が配布 (R5~)

(2)② ICT教育推進研究協議会

【目的】 本県のICTを効果的に活用した学びや校務のデジタル化について協議し、県と全市町村が共通理解を図りながら、DXを基盤とした新しい学びの確立と業務改善を一体的に推進する。

【アドバイザー】 県として、協議会だけでなく市町村の教育DXの推進状況に寄り添い実務的な指導を行うデジタル教育推進アドバイザーを任命 ※R3より

【オブザーバー】 ○文部科学省教育DX推進室室長補佐 ○群馬県DX推進監 ※R3より

年度	協議回数	参加市町村数	情報交換テーマ	関連会議等
R2	ICT教育推進研究協議会設置準備			WG①共通プラットフォーム活用 WG②「新時代の学び」推進 WG③業務改善推進 ※年数回実施
R3	3回 (5月,8月,2月)	7市町村 (先駆的な市町村)	5月,8月,2月 / ICT教育の推進	
R4	3回 (5月,8月,2月)	5月,8月 / 7市町村 2月 / 全35市町村	5月 / ICT教育の推進 8月 / ICT教育の現状と課題 2月 / ICT教育の現況と来年度の展望	
R5	3回 (5月,8月,2月)	全35市町村	5月 / 校務のデジタル化 8月 / 学校現場における生成AIの活用 2月 / 1人1台端末及びソフトウェアの更新	担当者連絡会議を年2回 (7月,1月)実施
R6	2回 (5月,2月予定)	全35市町村	5月 / 県内公立学校の校務デジタル化 2月 / 検討中	共同調達検討部会 を年3回 (5月,7月,2月)実施予定

(2)③教育DX推進センター

【目的】高度化、多様化するICT活用を支援し、県と市町村が連携して、DXを基盤とした新しい学びの確立と校務のデジタル化を推進する。

年度	体制	業務内容
R4	【教育DX推進センター設置事業】 県内5教育事務所にICT機器の運用管理・活用に関する知識・経験を有するコーディネーターを各1名配置	指導主事と連携し、学校現場におけるICT活用推進について、技術面から支援。学校のニーズに応じた研修会及びオンライン学習サポーターを対象とした研修会の実施
R5 R6	【教育DX推進センター運営事業】 ・教育DX推進リーダー（5教育事務所に各1名配置） ・教育DX推進アシスタント（中学校区を中心に全県で25名配置）	リーダーとアシスタントが公立小中学校を巡回し、教育DXリスト等を活用した直接的支援を通して地域間格差の解消を図る。また、実践事例を集約したポータルサイト等を活用して好事例の横展開。

DXを基盤とした新しい学びの確立

・ICTを効果的に活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、確かな学力を育成

働き方改革

・教職員の多忙化解消に向け、ICTを有効活用した業務改善策を提案・実行し、長時間勤務等を軽減

教育DXセンターポータルサイト

学校現場のニーズにより、リーダー及びアシスタントが作成した教育DXの実践事例を集約したポータルサイトを開設



群馬県教育DX推進センター

教育DX推進センター



教育DX推進センター

実践事例カウント

[[ボタン]]

[[ボタン]]

学校安全点検

[[ボタン]]

[[ボタン]]

クラブ活動希望調査

[[ボタン]]

[[ボタン]]

<https://sites.google.com/gw.system-alpha.co.jp/dxgunma/%E3%83%9B%E3%83%BC%E3%83%A0>

教育DX推進 **リーダー** と教育DX推進 **アシスタント** が **公立小中学校を巡回し、各学校の好事例や県教委が作成した各学校が自走するために最低限必要な内容をまとめた教育DXリストに基づいた直接的支援**※を実施

※教育DXリストに基づいた直接的支援

- ・ 教職員の多忙化解消へ向けた、ICTを有効活用した業務改善に係るツールの提案や設定等、校務のデジタル化の推進
- ・ 端末を活用した家庭学習や保護者との連絡手段の設定支援、機器操作等の支援
- ・ 授業におけるICT機器やソフトウェアの効果的な活用方法等の支援
- ・ オンライン・遠隔学習等に関する環境整備や機器操作等の支援

市町村や学校の教育DX化の自走を促す

<p>学校運営</p> <ul style="list-style-type: none"> □各種アンケートのデジタル化 (Forms活用) <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケート・健康調査等 □ペーパーレス職員会議 (共有ドライブ設定、共同編集機能) □校務のデジタル化 (共同編集機能を活用した安全点検等) 	<p>+α クラウドツールを利用した教育DXの例</p> <ul style="list-style-type: none"> □学校日誌 □学年・学級会計簿 □行事予定表 ※大型モニタ掲示用 □特別教室予約 □長期休業動静調査等
<p>学習指導</p> <ul style="list-style-type: none"> □全クラス「Classroom」「Teams」等の設定 □授業支援アプリの効果的な活用 □オンライン授業配信 (Web会議システムによる授業配信) □小テストのデジタル化 (Forms活用をした自動採点機能)等 	<p>+α クラウドツールを利用した教育DXの例</p> <ul style="list-style-type: none"> □児童生徒の学習記録、授業のふりかえり □課題のオンライン配信 □学習計画表等 その他 □デジタル教科書、教材の活用等
<p>朝の業務</p> <ul style="list-style-type: none"> □欠席・遅刻連絡のデジタル化 (Forms・無料アプリ活用) □健康観察 (ヘルスケア、メンタルケア)のデジタル化 (Forms、学習eポータル等の活用) □欠席状況等、職員間の情報共有 (可視化) □集会のオンライン配信 (Web会議システム)等 	<p>教育DX推進センター</p>  <p>各種実践事例をダウンロードして、活用できる教育DX推進センターポータルサイトは、二次元コードからアクセス!</p>
<p>家庭との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> □各種通信のデジタル配信 (Classroom・Teams等) □オンライン面談 (Web会議システム) <ul style="list-style-type: none"> ※家庭訪問縮小の場合の対応例 □家庭学習のデジタル配信 (ドリルアプリ活用等) □各種アンケートのデジタル化 (Forms活用) <ul style="list-style-type: none"> ・PTA関係・進路希望調査・行事出欠調査等 	<p>+α クラウドツールを利用した教育DXの例</p> <ul style="list-style-type: none"> □PTA活動全般 (総会決議、資料配付等) □業務時間外の間合せ窓口 (Forms活用) □面談の日程調整等 その他 □無料アプリの活用等
<p>学校行事</p> <ul style="list-style-type: none"> □学校行事のオンライン配信 (Web会議システム) □オンライン生徒会選挙・デジタル投票 (Forms活用) □ペーパーレス生徒総会 □デジタルカレンダーの設定・活用等 	<p>+α クラウドツールを利用した教育DXの例</p> <ul style="list-style-type: none"> □実行委員会の情報共有、情報発信 □各種行事の審査、記録、集計等 □練習日程の調整等 
<p>生活指導</p> <ul style="list-style-type: none"> □生活ノートのデジタル化 □生活アンケートのデジタル化 (Forms活用) □タブレットを活用した個人面談・授業配信 (Web会議システム) □年度更新処理 (データ引継ぎ)等 	<p>+α クラウドツールを利用した教育DXの例</p> <ul style="list-style-type: none"> □健康観察 □タブレットを活用した心の健康調査 □中学校校区における共有ドライブの活用 □長期休暇用生活記録、緊急連絡フォーム

(3)教育データ利活用の取組

【目的】「新・群馬県総合計画」のビジョン及び基本計画に明示されている、学びのデータの蓄積による小中高連携を推進する。

年度	ライフ・ログの活用研究	スタディ・ログの活用研究
R 3	<p>児童生徒が心理状態・健康状態を端末から入力し、複数の教職員等がデータ共有し、児童生徒を早期に支援する取組をモデル校事業として企業と協働して実施</p> <p>※事業規模：小中学校 5市町村 9校 高等学校 県立 2校</p>	<p>スタディアプリを活用し、授業と家庭をつないだ学びの研究をモデル校事業として実施</p> <p>※事業規模：中学校 4市町村 4校</p>
R 4	<p>R 3事業にモデル校を追加して事業を実施</p> <p>※事業規模：小中学校 8市町村 18校 高等学校 県立 5校</p>	<p>R 3の公立小中学校に加え、高等学校において到達度テストを実施し、テスト結果に応じた個別の動画や課題の自動配信に係るモデル校事業を実施</p> <p>※事業規模：小中学校 4市町村 4校 高等学校 県立 5校</p>
R 5	<p>R 4のライフ・ログの活用研究の内容に、スタディ・ログ（定期考査結果等）も取り入れて両方を融合した活用研究を実施</p> <p>※事業規模：高等学校 県立 5校</p>	
R 6	<p>高等学校におけるGoogleフォームを活用した生徒の健康観察及び心の実態把握の取組をゼロ予算にて実施、成果を共有し、汎用性のあるツールで横展開を促進</p> <p>※取組例(県立太田女子高校、県立安中総合学園高校)</p>	<p>高等学校において、到達度テスト（スタディアプリ）とその結果に応じた連動課題配信や、入学試験・定期試験の自動採点補助システム導入による得点のデータ化により、生徒の学習状況の即時把握や生徒個々の実態に応じた効果的な学習を推進</p>

2. 取り組みの成果からわかったこと

市町村を見渡すことができる都道府県が、市町村や学校の独自性を尊重しつつ、主導していくことが大切

※共通にするところと独自なところのバランスが大切

効果が表れた例

(1) 市町村の取組の下支え(ICT教育推進研究協議会、教育DX推進センター)

R5年度全国学力・学習状況調査

・児童生徒質問紙：「PC・タブレットなどのICT機器を、週3回以上使用」

【全国比較 小学校+6.9% 中学校+10.6%】

・学校質問紙：「端末を、毎日持ち帰って、ほぼ毎日家庭で利用させている」

【全国比較 小学校+9.9% 中学校+18.0%】

2. 取り組みの成果 具体例つづき

(2) 教育データ利活用について

- ・先駆的な取組を体験することの効果

 - ⇒ライフ・ログ活用実験に参加:子どもたちの心身のSOSの早期発見・対応や重大事案の未然防止への有効性を市町村や学校が実感。

 - ⇒県による補助終了後も、可能な市町村は独自の予算で継続。活用が加速。

教育データ利活用の問題

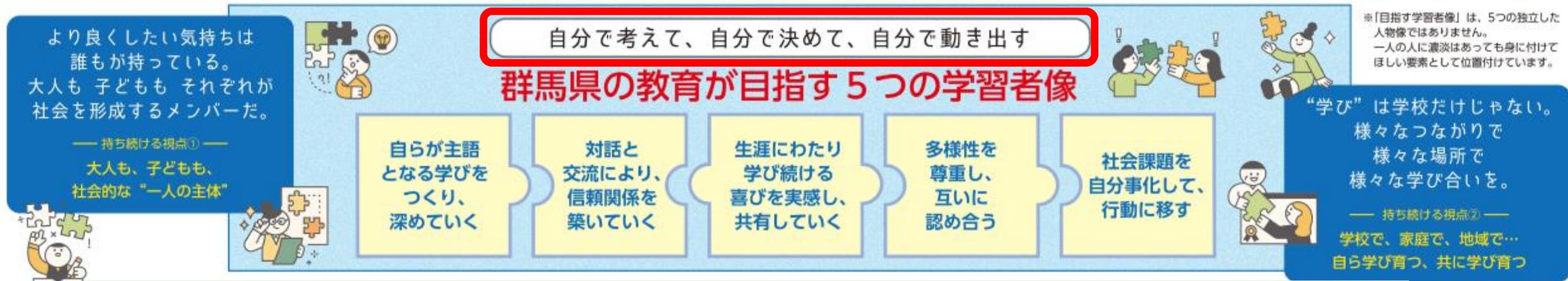
- ・全県に広がらなかった

3. データ利活用へ向けた課題

- (1) 市町村、学校ごとに導入しているデジタル基盤（校務系、学習系）にばらつきがあり、データ利活用も独自に行っている。
- (2) 市町村ごとにデジタル基盤をつくり込んでおり、デジタル基盤の活用が進んでいる市町村ほど、県域全体でのデータ利活用に参加しにくい。
- (3) データ利活用の目的を深掘りせず（何のために何のデータを組み合わせダッシュボード化するのかの検討が不十分なまま）進めたため、財政の観点で市町村教育委員会や財政当局から、個人情報取り扱いの観点で学校や保護者からの理解が得られずに、持続可能な取組につながらなかった。

4. 自ら学びをつくり行動し続ける自律した学習者の育成

群馬県教育ビジョン[R6~R10] (群馬県教育振興基本計画)



だれもが伸び行く力を持っている。子どもを信じて任せる
学校を信じて任せる、教員を信じて任せる

×決定したことを学校に下ろす ⇒ 現場の負担感増、結局進まない

◎学校・教員・子どもを信じて任せる ⇒ 自ずと利活用が進む

ただし、教員の腹落ちが必要。活用のための基盤が必要

5. 課題解決に向けて

データ利活用の 目的の明確化

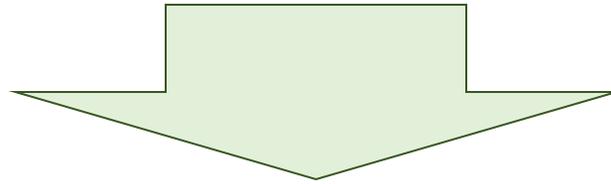
【学校種、行政区域、行政分野を超えたデータ連携、学習eポータルを活用】

個人情報の 取扱いの統一

【セキュリティーポリシー、各教委・教職員の意識（保護者への配慮）】

柔軟性をもった デジタル基盤の標準化

【ベースを共通化しつつ、各学校等の工夫も尊重できる仕組み】



データ利活用の目的を明確化し、個人情報の取扱いを統一した上で、
首長部局を含む様々な所に点在するデータを目的に応じて組み合わせて
分析を可視化するダッシュボードが必要。
点在するデータをつなぐためには、学校のデジタル基盤整備の標準化が
不可欠。

6. 提案

- ・学校におけるデジタル基盤整備の標準化

⇒ 国レベルでのアーキテクチャの統一や一定基準の提示